

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園まどか幼稚園
教育理念	子どもの主体的な遊び・活動を中心に環境を通して、心身とも健康で元気な子、自分の心と体を大切に自分以外の人の心と体も同じように大切にできる子、身近なものに興味を持つ子、自ら進んで活動ができる子、最後までやりぬく子、以上の5つの姿を持つ子どもを育成する。
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	投運動能力向上のための運動機会増進事業
2 実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年4月25日 ～ 令和5年4月25日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>5歳児 園庭 籠ではなく中心の的に玉を投げるように促すことで、投運動において力や腕の振り方をコントロールする経験に繋がった。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年4月27日 ～ 令和5年4月27日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>3歳児 遊戯室 体幹を鍛え怪我を防止するために、走る、止まる、しゃがむ、立つを繰り返す運動遊びを提案した。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年5月24日 ～ 令和5年5月24日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>自由遊び場面 園庭 通り道である階段に玉入れを設置することで多くの子どもが興味を持ちやすくなった。袋にはおぼけの絵を描くなどしている。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年5月16日 ～ 令和5年5月16日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>3歳児 遊戯室 低年齢向けの籠を用いて投運動を促した。</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年6月14日 ～ 令和5年6月14日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>2歳児 遊戯室 触れ合い遊びの中で、這う、潜るといった姿勢制御系の運動経験を促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年7月6日 ～ 令和5年7月6日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>4歳児 園庭 ドッジボールを通して投げ方の指導を行った。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年8月7日 ～ 令和5年8月7日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>2歳児 遊戯室 ダンボールを積む、崩す、という運動を繰り返す中で腕の使い方を指導した。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年9月6日 ～ 令和5年9月6日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>2歳児 遊戯室 新聞紙を棒状にしたものを子どもに持たせ、的を叩き落とす遊びの中で、腕を振る経験を促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年9月29日 ～ 令和5年9月29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>満3歳児 遊戯室 運動用ブロックを用いて、不安定な場所でもバランスを取れるように促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年9月29日 ～ 令和5年9月29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>満3歳児 遊戯室 ボールを使用して投運動を促した。</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和6年1月31日 ～ 令和6年1月31日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>満3歳児 遊戯室 障害物を設け、跳ぶ、潜るといった動きを促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年2月8日 ～ 令和6年2月8日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>3歳児 園庭 簡単なルールのリレーを提案することで、直線的な走運動だけではなく曲線的な動きも引き出した。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年2月15日 ～ 令和6年2月15日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>5歳児 遊戯室 独楽回し大会 行事として独楽回しを行うことで、この日までに多くの子が運動指導者や園長に回し方を教わりに来た。独楽回しは手首を使って投げる運動を促すものである。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年2月29日 ～ 令和6年2月29日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>4歳児 園庭 園庭全面を用いてクラス対抗リレーを行った。走運動の経験という運動面だけではなく、勝ち負けにこだわる競争心の芽生えを促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年3月12日 ～ 令和6年3月12日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>5歳児 遊戯室 手をつないだまま素早くフープを潜る遊びをすることで、全身の身体の動かし方学ぶように促した。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年3月14日 ～ 令和6年3月14日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>4歳児 園庭 カラーコーンを用いて、コーンを倒す、戻すまたは避けるといった</p>	

効果検証報告書

施設名	幼保連携型認定こども園まどか幼稚園
教育理念	子どもの主体的な遊び・活動を中心に環境を通して、心身とも健康で元気な子、自分の心と体を大切に自分以外の人の心と体も同じように大切にできる子、身近なものに興味を持つ子、自ら進んで活動ができる子、最後までやりぬく子、以上の5つの姿を持つ子どもを育成する。

事業の区分(5領域)	健康 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	投運動能力向上のための運動機会増進事業
2 事業概要	低下傾向にある幼児の運動能力の中で特に投運動能力の向上を目指し、専任の運動指導者が常勤職として環境設定と指導を直接行う。

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 幼児体操教室に勤務経験のある運動指導者1名を専任常勤職として雇用している。幼児の運動発達が専門で博士の学位を有する園長が管理をする。園庭等の物的環境は特別区内では広い部類に入る。指導に必要な教材を更新している。
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 0歳児クラスから全ての学年で月に1回以上は計画的な運動遊びの設けることができた。年齢に合わせて園庭、遊戯室、保育室など使い分け、様々な場所で実施した。運動指導者と園長が相談し、手作り遊具なども制作する時間を設けることもできた。運動の機会が増え、運動経験が豊たになったが、ここで提案した遊びを担当保育者も子どもと行う再現性に課題が残った。

計画時	4 事業のねらい	課外活動などの運動指導とは異なり、子どもが主体的に運動したくなる環境を整備し、そこに運動指導者が常にいることでより豊かな運動経験を積むことができるようにする。その結果、在園児の特に投運動の運動能力の向上を図る。
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 投運動に限らず幅広く運動に取り組めるように物的・人的環境を整備した。その一方で運動能力調査を行っていないので客観的な数値としての効果が検証されていない。3歳以上児に対しては、運動能力調査を年間予定に組み入れるべきであった。

事業後	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 自由遊び場面と一斉活動場面の両方で実施する。自由遊び場面では、運動指導者が物的環境を整備し、子ども達に運動あそびの提案を行う。主体的に遊びに参加する中で必要な場面で指導を受ける。一斉活動場面では、指導者が設定した学年に適した遊びを知るきっかけとなることを意識する。自由遊びと一斉活動に連続性を持たせることが重要であり、専任指導者の存在の有無が取り組みに大きく影響する。
	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 日常的に運動遊びを提案する運動指導者の存在が子ども達に認知され、子どもから「用具を出してほしい」「遊びを教えてほしい」という発話も多く見られた。しかし一斉活動場面は全員で経験しても、自由遊び場面となると積極的に運動をする子とそうでない子の差が大きい。運動遊びをそこまで好まない子へのアプローチが課題である。

計画時

<p>6 環境構成</p>	<p>例)園庭での園独自の玉投げ 5歳児 一斉活動場面</p> 
---------------	--

事業後

<p>6についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>遊びには季節性があることが先行研究でも指摘されているため、1年を通してその時期に合った環境構成を行って運動遊びを実施できたことは有用であった。しかし物的環境を常設することが難しいため、実施後の片付けが必要であり、子ども自身で環境構成を行えないものも多いことが課題である。</p>
--------------------	--

<p>7 期待される効果 児童の姿</p>	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <hr/> <p>投運動能力の向上に加え、全身の運動能力の向上が期待される。さらにそれによって、遊びの質の向上と怪我の減少も期待される。また運動を通して達成感を味わうことによる運動有能感の向上による肯定的な自己概念の形成の芽生えが期待される。</p>
---------------------------	--

事業後

<p>7についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>運動遊びに積極的に取り組む姿が多く見られ、特に「運動指導者＝運動が得意」という印象から様々な技を教えてほしいと担任よりも運動指導者や園長に声をかけてくる子がいた。特に鉄棒やこま回しなどが顕著であった。その結果、全体的には運動能力の向上や運動有能感の向上が期待されるが、客観的な評価は特に運動有能感については難しいところである。怪我については大きな事故はなかったが、転倒による怪我などは依然として見られるため怪我を防止するための取り組みも強化する必要がある。</p>
--------------------	---

<p>8 効果検証 総括</p>	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <hr/> <p>運動指導者が専任でいることは担任よりも運動の計画・準備・実践の全てにおいて専門性と時間の余裕があるため効果的である。また運動能力の発達は継続的な取り組みによって支えられるものであることから来年度以降も今年度の改善点を活かして実施したい。0歳児から運動遊びを行うことは担任保育者にとっても新しい取り組みであったが、来年度の継続実施の希望も出ている。運動指導者や園長が担当となることでより積極的・先進的な取り組みを進めることができたが、その一方で担当者任せになってしまうことも懸念されるため、今後も運動指導者や園長と担任保育者との緊密な連携が必要であると感じた。</p>
----------------------	--